

「生きる」二つの命に誓う

子を宿した妻亡くした男性「数分早く帰れば……」

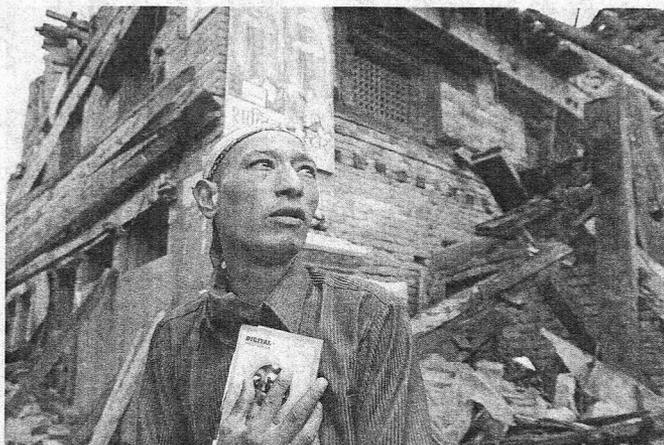
【カトマンズ平野光芳】ネパールを襲ったマグニチュード(M)7.8の大地震から9日で2週間を迎える。がれきの間を通り抜ける人や車が増え、街はゆっくりにぎわいを取り戻しつつある。「悲しむばかりではだめだ。二つの命の分まで生き抜く」。首都カトマンズ近郊サンクイーで雑貨店を経営するアペンドラ・バシさん(42)も、2人目の子を宿したまま亡くなった妻ヤンダさん(38)にそう誓い、自宅と店の再建に動き出した。

「食事の用意ができたから戻って来て」。4月25日正午前、ヤンダさんからの連絡で自宅に入ろうとした瞬間、強い揺れに襲われた。れんが造りの3階部分が、目の前で崩れ落ちた。急いでがれきをどけると、かすかに息をする妻がいた。近くの病院に運んだが、だめだった。ヤンダさんと結婚して5年。「親戚を含め8人の大家族だったが、皆に優しく、すぐに溶け込んでくれた」。長女ナムラタちゃん(4)を授かり、2人目が4カ月に入っていた。「男の子



ヤンダさん
—家族提供

ネパール大地震きょう2週間



つぶれた自宅の前で、亡くなった妻の写真を胸に、店の再開を誓うアペンドラ・バシさん＝ネパール・サンクイーで7日、望月亮一撮影



か女の子か、どちらだろう」「子供にいい暮らしをさせるため、もっと仕事を頑張ろう」。毎日の会話が楽しかった。

「あと数分早く家に帰っていたら、妻とおなかの赤ちゃんを救えたかも」。被災直後、避難所で布団にくるまるたび、そんな思いにとらわれた。「いつお母さんと会えるの」。別の場所で助かり、今は親戚に預けているナムラタちゃんからの電話にもまだどう答えていいかわからない。でも、少しずつ気持ちに変化が出てきた。「自分だけが悲しいわけではない」。近所には3

「妻は生まれ変わってもっと良い生活ができるはずだ。いつまでも悔やんでいてはつまらない」。悲しみを振り払い、がれきと化した自宅や店の整理を少しずつ始めている。

「生活を立て直すためには住む場所と仕事が必要だ。政府に低利で資金を貸してほしい」とバシさん。そしてヤンダさんに誓う。「必ず再起してみせる。その姿を見てほしい」

ネパール大地震 救援金受け付け

毎日新聞社と毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団は、ネパールを襲った大地震の被災者救援金を受け付けます。通信欄に「ネパール地震」と明記し、郵便振替か現金書留でお送りください。送料はご負担をお願いします。勝手ながら物資はお受けできません。お名前、金額などを地域面に掲載しますので、匿名を希望する方は「匿名希望」と明記してください。〒530-8251 大阪市北区梅田3の4の5、毎日新聞大阪社会事業団「ネパール地震」係(郵便

「診療所来られぬ人も

ネパール大地震で被害の大きかった地域で医療支援の活動をした長崎大熱帯医学研究所教授で医師の山本太郎さん(51)が7日帰国し、毎日新聞の取材に応じた。民間病院の中庭で被災者の診療に当たり「山に暮らす負傷者が山道を4〜5時間かけて歩いてきた。山の奥深くに村が点在してお

帰国のNGO医師

り、診療所に来られぬ者もいると思う」と語り、山本さんは国際医療N O A M D A (アムタ) (山市)の派遣チームとして5月1〜4日、カトマンズ北東に車で3時間ほどのドゥッパルチョーク地区ディチョウルに滞在。仮診療所で診療に加わった

【下桐実雅子

必要額500億円 支援まだ5%

【カトマンズ金子淳】ネパール内務省によると、8日、周辺国も含め、死者数は7900人以上、負傷者数は1万5944人に達し、約29万棟の建物が倒壊したほか、約25万棟が損壊した。行方不明者も多数いるとみられ、死者数は1万人に達する可能性もある。テントが圧倒的に不足しており、6月にも雨期を前に支援関係者は募らせている。

国連によると、最初の3間で4億1500万ドル(約0億円)の支援が必要だが、国からの援助は2240(5%)しか集まっていな被害が大きい山間部では十物資が行き渡っていないの状だ。また、感染症まん延れも指摘されている。